



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム

# NEWS LETTER

特集

## ライブミュージアムで、 つくる!

vol. **41** | 季刊 **秋**  
2016





特集

ライブミュージアムで、

つくる！

「体験・体感」がキーワード、いきいきと活動するミュージアムへ。  
10月1日で、ランドオープン10周年を迎えたINAXライブミュージアム。  
常滑の地に育まれた「ものづくりの心」を大切に、手を動かし、工夫して、  
ものをつくり上げる楽しさ、大切さをたくさんの人たちと分かち合ってきました。  
今までに、どんな「つくる」があったのか、これから何を「つくる」のか。  
ライブミュージアムの「つくる」をご覧ください！



INAXライブミュージアムは、東日本大震災の復興を支援しています。

01 [特集]ライブミュージアムで、つくる！

02 「つくる」は楽しい！ 後藤泰男/磯村 司/竹多 格

06 INAXライブミュージアム10周年  
特別展「つくるガウディ」  
ものづくりを発信するライブミュージアムが、ガウディに挑む。住宮和夫

07 特別展「つくるガウディ」総合ディレクター 水野慶子に聞きました。

08 それぞれの“つくる”を語る  
日置拓人(建築家)/久住有生(左官職人)/白石 普(タイル職人)

LIVE SCHEDULE これからの催し

10 特別展「つくるガウディ」

11 旅するパーラー陶の森

LIVE REPORT 開催報告

12 企画展『タイルの幾何学—秩序と無限の模様』関連ワークショップ  
夏のマンダラ幾何学画をつくらう

どろの遊園地2016～子どもは遊びの天才だ～

INAXライブミュージアム ナイトミステリーツアー

13 光るどろだんご全国大会2016 各地で地区予選、開催

企画展『炎を操る 刀・やきもの・ガラス-1050度、美の誕生』関連ワークショップ  
煉瓦でかまどを作る～BBQコンロと煙突コンロ～

フォトコンテスト2016 入賞・入選作品の決定

## CONTENTS

INAXライブミュージアム  
NEWS  
LETTER

vol. 41 | 季刊 秋  
2016

表紙写真

昨年の「陶と灯の日\*」、市民  
がつくった1500個の陶製ラ  
ンプシェードが「窯のある広  
場」を飾りました。今年もラ  
イブミュージアムはオレンジ  
色の光で包まれる予定です。  
(2015.10.10)

撮影:村山直章

\*毎年10月10日、故伊奈長三郎氏  
(初代常滑市長・伊奈製陶創業者)  
の命日に開催。常滑焼の歴史と伝  
統を未来に継承していこうと、さま  
ざまな催しが各地で行われる。

常滑から※

40

### 常滑の土俵・相撲大会



常滑の土でつくられた土俵。4本柱にはそれぞれの方角を守る動物の神様が祭られているという。

7月31日(日)、お誘いを受けて、小  
学生の相撲大会の応援に行きました。  
場所は常滑市立西浦北小学校。朝から  
夏の太陽が降り注ぐグラウンドの南側  
に、立派な4本柱と方屋を備えた大き  
く本格的な土俵がありました。西浦地  
区は知多相撲の発祥の地で、相撲が盛  
んに行われていました。かつては大相  
撲名古屋場所の土俵も知多半島の土を  
使っていたそう、この小学校の土俵  
にも知多半島の土が使われています。  
行司さんから「勝ち負けではなく礼  
に始まり礼に終わる...その所作をきち  
んとしたら大きな拍手をして下さい」と  
とお話があり、大変な熱気と盛り上が  
りで大会が始まりました。男子児童全  
員が、学年別で二人勝抜戦(6年生は  
トーナメント戦)を行います。出場す  
る子どもたちが目指すのは賞品のスイ  
カ。「今年は絶対スイカを勝ち取るの  
よ!」と前々から子どもにも稽古をつ  
けてきたというお母さんなど、並々な  
らぬ意気込みで臨む親子もいました。  
常滑の子どもたちは、地元の土でつく  
られた土俵で足腰のしっかりした子に  
成長するのかなと、とても微笑ましく  
思いました。

住宮 和夫(館長)

※ INAXが生まれ育った常滑のやきものや土に関わる人、風景、できごとなどを、INAXライブミュージアムのスタッフが伝えます。

# 「つくる」は楽しい!

建物も、地域の人みんなでつくりたい。

土のぬくもり、そして手ざわりを感じる「土・どろんこ館」は、グランドオープン(2006)に際して建設しました。「建物も地域の人たちといっしょにつくりたい」と、ワークショップ(以下WS)で内部壁面の建築資材「日干しれんが」を製作。ライブミュージアムの「つくる」はWSで始まりました。

翌年には「世界のタイル博物館」をリニューアル。一階展示室に、古代メソポタミア時代から現代まで6つのタイルの時代を再現しました。コンセプトは「装飾する魂」—人はなぜ装飾するのか。人間の営みの根源を体験・体感する空間です。入口に再現した5500年前のクレイペグの壁空間づくりにも、地域の子どもたちが参加しています。



日干しれんがの壁

## 日干しれんがWS (2006年)

土曜・日曜それぞれ3回開催、延べ220人の参加で3000個の日干しれんがを製作。1か月以上原料置き場で乾燥させた後、積み上げて壁をつくった。



## クレイペグWS (2007年)

5500年前の創建時の姿の再現に取り組む。スタッフは何人もの専門家を訪ね、最後にクレイペグのデザインや建物の図面が掲載された発掘調査の原書を手に入れることができ、自信を持って図面を作成した。クレイペグは子どもたちが5000本、スタッフが50000本余をつくった。



古代メソポタミアのクレイペグの壁

## 日々進化する WS「どろの遊園地」

「土・どろんこ館」なのに、どうしてどろんこになれないの? 来館者のこんな声を聞き、2007年から始めた「どろ田」。どろ遊びのメニューも増えて、「どろの遊園地」に進化。すっかり、夏の風物詩になりました。



4

**WS どろの遊園地 ~子どもは遊びの天才だ~ (2007年-)**

陶芸用の粘土でつくった「どろ田」を中心に、どろだらけになって思いっきり遊ぶ。



2



1



3



5



6



7

- 1「どろだんご」
- 2 WSで作ったシャワーでどろを落とす。
- 3 ボランティアが見守る「どろ田」。最初はためらっている子どもも、やがてはどろ人間となる。
- 4 今年初登場、山砂を盛った「砂山」
- 5 小さい子たち用の「どろぶろ」
- 6 どろでペインティング「どろ化粧」。「子どもたちがたくさん元気をくれます。来年もまた来たい!」と、京造形芸術大学の学生さん。
- 7 楽しい夏休みの一日

ものが語る。つくった人たちの思い



1-1資料館館長 後藤泰男

世界のタイル博物館のリニューアルでは、単なる形の再現ではなく、昔の人たちが何を思い、どうやってつくったのかを体感できる空間をつくりたいと考えました。当時の原料やつくり方を再現するのではなく、何のためにこういう空間をつくったのかを考えることが重要でした。

古代メソポタミア時代の何百万本のクレイペグは、多くの人の手によってつくられた不揃いのものでした。それを再現するために、WSをやって子どもたちの力を借りたのです。作業自体は単純なので子どもたちは飽きるだろうと、午後からは海に連れていくなどいろいろなプログラムを用意していました。けれど、そんな必要は一切なかった。午前から午後まで、みんな夢中になってペグづくりをしていたのを思い出します。そうしてできた空間は、ものづくりの心を語っていると思います。

WSの魅力は、出来事をいっしょにつくっていくこと



WS担当 磯村司

何より安全に楽しく、思う存分、泥で遊んでもらうのが「どろの遊園地」。子どもたちにとっては非日常の別世界なのでしよう。始めて以来、大人気のイベントです。毎年、ボランティアとして遠方から参加してくださる方もいます。もっと子どものことを知らなければいけないと、2012年からは京造形芸術大学子ども芸術学科の学生さんたちといっしょに開催しています。「どろの遊園地」は、みんなで考えながら日々進化させていくWS。私たちも学生さんも成長できるのが良いところです。

私は10年間、いろいろなWSを担当してきました。そして思うのは、ものをつくることだけがWSではないということです。物語や出来事をいっしょにつくっていく、いっしょに汗を流して、ご飯を食べて、仲間になる。それが体験教室と違うWSの魅力だと思います。